

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

本野 啓代治

かこ

話の火消し壺

昔は、ガスコンロも石油ストーブもお風呂も火をつけるときはマッチを使いました。今は何もかもに自動着火装置がついていてマッチを使うことがなくなりました。昔は、火鉢やコタツなどで使った炭を火消し壺の中に入れて、火を消しました。マッチのすった後の燃えかすも火消し壺の中に入れて管理しました。火消し壺は家庭で使う火をすべて管理したものでした。

何でも消してしまうこの壺を日常生活にたとえて、『話の火消し壺』という言い方をする人がいます。私が中学校の時に、先生の提案や友達の意見について、直ぐにマイナスの言葉を投げかける生徒がいました。4月のクラスのスタート時期にふれあいを目的に体育委員が「今日の昼休み、ドッチボールしませんか？」などとみんなに投げかけると「かったりーよ。ドッチボールなんてつまんないよ。やる気起きないよな。」など聞こえるような声で言います。その言葉で、やろうとしていたクラスの気持ちは素直に出せなくなって、盛り上がりなくなります。班の会議なども「遠足では、こんなコースもいいかな。」などと提案されると「つまんないよ、そのお寺。」などと言って、友達の発言を一瞬にしてつぶしてしまいます。

私が中学生の時に担任の山口先生がこのような直ぐに否定的な発言をする生徒に、『君の発言でクラスの多くの人が嫌な気持ちになっていることがわからないかな？君のような発言を繰り返す人を「話の火消し壺」というんだよ。』とはっきり A 君に注意しました。その時、私も A 君に話を合わせて、自分はドッチボールを嫌でないのに、「ドッチボールつまんない！」などと A 君に同調して行動していた自分に気づき、恥ずかしい気持ちになりました。一生懸命に提案している人をただ、茶化す側に回っていた自分がひどくちっぽけに感じました。心の中で、「話の火消し壺」にならないようにしようと決意しました。みんなのまわりには、火消し壺のような人はいませんか？

今日の揃っていない靴の数

1 組 = 4 足 2 組 = 3 足 3 組 = 5 足 合計 = 12 足

(5 足)

(6 足)

(3 足)

(14 足)

* () 内の数字は昨日の数字です。

* 昨日より - 2 足減となりました。

合計 10 足以下になったら、揃えられていない生徒に講習会を開きたいと思います